

前 奏 トーンチャイム (讃美歌 147)	讃美歌 155 空はうららに
招 詞 詩編 68:20～21	聖 餐 式
讃美歌 156 主はいきたもう	讃美歌 207 主イエスよこころ
祈 禱	献 金 トーンチャイム (讃美歌 148)
信仰告白 使徒信条 566	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 申命記 19:15	黙 禱
ルカによる福音書 24:1～12	主の祈り 564
讃美歌 147 よろこびたたえよ	頌 栄 539 あめつちこぞりて
説 教 『復活、空虚な墓に背を向けて』	祝 禱
祈 禱	後 奏 トーンチャイム (讃美歌 156)

週の初めの日の早朝、薄暮の中、女たちはイエスの墓に行った(ルカ24:1)。ところが墓の中にイエスの遺体が見当たらず、「途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた(24:4)」。恐れにひれ伏す女たちにその二人が言った。「あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ(24:6)」。

「いかなる犯罪であれ、およそ人の犯す罪について、一人の証人によって立証されることはない。二人ないし三人の証人の証言によって、そのことは立証されねばならない(申命 19:15)」。たとえ天使であっても復活の証言は特別で、二人いた方がいいのか。天使の証言を聞いた女たちは三人以上いたのに(ルカ24:10)、「使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった(24:11)」。

復活を証しする女たちと、信じない使徒たち。その中間もある。「しかし、ペトロは墓へ走り～この出来事に驚きながら家に帰った(24:12)」。ペトロは全速力で墓へ走り、墓を背にして戻る時はとぼとぼと歩いた。この帰り道の歩調は私のイメージに過ぎないが…。「あの方は～復活なさった」という天使からの伝言は聞いたが(24:9)、墓で見つけた物は遺体をくるんでいた亜麻布のみ(24:12)。「死の証拠」だけを残してイエスは忽然と消えたが、ペトロは復活を受け入れたわけではない、ことは想像できる。

女たちは「準備しておいた香料を持って墓に行った(24:1)」。つまりイエスの死を納得するために、丁寧な埋葬を考えた。しかし遺体は消え、途方に暮れた(24:4)。すると二人の天使は言う。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか(24:5)」。女たちは「死」に向かってイエスを捜したが、復活の証言を聞き(24:6)、死である墓を背にして家に帰った。女たちから一部始終を聞いた使徒(24:9)。ペトロは墓へ走ったが天使はおらず、墓から帰った(24:12)。両者とも死に向かい、そして死を背にした。

女たちは「墓から帰り(死に背を向け)～一部始終を知らせた(24:9)」。この「知らせた」という言葉は「命じられた事柄を伝える」の謂で重々しく、ルターはこれを「宣教した」と訳している。なんと、女たちが使徒に宣教した。つまり「復活の宣教」の端緒は女たちで、「マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア～他の婦人たち(24:10)」。筆頭にあげられたマグダラのマリアとはどんな人物か。

「七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア(8:2)」。とんでもない苦しみに閉じ込められていたマリア。彼女はイエスによって癒され、解き放たれた。すなわち、もっとも無力な「マリアたち」から復活が宣教され始めた。そして自己が崩壊するほど惨めなペトロ(22:61～62)に復活が響き、また「たわ言」として信じなかった無学な使徒たち(24:11)に復活が芽吹くことになる。

「神は～世の無学な者を選び～世の無力な者を選んだ～世の無に等しい者～身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれた(1コリント1:27～28)」。人間の違いだけではない。私たちの無学で無力な部分、無に等しく見下げられている部分で。私たちの「無」で復活の宣教を聞き、無から復活を証言する。

復活 見たものは空虚な墓 それは女たちが天使から聞いた事柄だった 復活は 伝えられる言葉
多言語で伝えられ 私たちは日本語で聞いている 聴覚による復活宣教 どんな暗闇でも届きうる

本日は復活祭。次主日 4/27 の礼拝後、教会総会を開きます。会員の方は出席をお願いします。

4/21(月)10:00～11:30 八ヶ岳教会の甲府聖研(山梨 YMCA)。牧師の動き:本日午後は峡南教会で説教。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。